

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスすきっぷ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月17日		～ 令和7年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和7年1月17日		～ 令和7年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に応じた支援の提供、計画に沿った支援の提供をしている。	統一した支援手順書を作成することにより、特性に合わせた支援の提供をしている。 懇談時には学校での様子と照らし合わせて、事業所での課題設定を連携することによって、支援内容がわかりやすいものになっている。 コンサルテーション報告書なども伝えることによって、特性理解をした支援を提供できるようにしている。	支援手順書を使用した支援の提供。 担当指導員が本人と課題に対して個別に学習する際には、児童発達支援管理責任者もモニタリングとアセスメントをする。
2	保護者に対してペアレントトレーニングや研修会の開催、情報提供、面談や助言をしている。	グループ相談や懇談を実施している。 また法人主催の研修会の案内や、外部からの研修案内、情報提供も随時行っている。	グループ相談だけではなく、気軽に参加できるような茶話会も開催検討する。 保護者の意向調査をし、グループ相談でのテーマなども検討する。
3	本人、保護者との意思の疎通ができています。	連絡帳において当日行った活動内容をわかりやすく記入し、保護者へ知らせている。 また複写になっているため記録が事業所と保護者間で保管し見ることができるため、共通理解が図りやすくなっている。	文書で伝えることが多いので、写真などを載せたお便りの発行も検討する。 Facebookも引き続き活用する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館、地域の子どもたちとの交流がない。	特別支援学校の児童生徒のみが在籍しており、放課後児童クラブの児童や地域の子どもたちと通常の生活において接点がない。	保護者へどのような交流を望んでいるかなど意向調査をする。事業所だけでは解決できない部分もあるため、調査結果を法人の方にも伝え、活動内容を検討する。
2	運動する場所が狭い。	室内が個別に配慮した設定になっているため、体を大きく動かす活動に制限がある。	新年度に向けて室内の配置を見直す。 体を動かせる機会や、戸外での活動も検討する。
3	保護者同士の交流やきょうだいへの支援が不十分である。	就労している保護者が多くなり、茶話会やグループ相談の機会を設けても参加できる人が少なくなっている。 一人っ子の割合が多いことで、きょうだいへの支援も同様である。	保護者へどのような内容であれば参加できるのか、意向調査をする。事業所だけでは解決できない部分もあるため、調査結果を法人の方にも伝え、活動内容を検討する。